



経済学部 出身

兼田 貴代 さん

株式会社 櫟 kunugi

代表取締役／オーナーパティシエール

かねだ・きよ／専門学校卒業後さまざまな飲食店で経験を積み、1994年に株式会社 櫟を創業。代表取締役として第一線で活躍を続ける中、広島大学経済学部にて社会人入学した。2021年に卒業した後、事業を海外へも拡大している。

身近な人を喜ばせたい ワッフル専門店で立ち上げた後、 社会人入学

調理師学校を卒業後、お寿司屋さん他飲食店で経験を重ね、ワッフル専門店“櫟 kunugi”を創業しました。家族や友人など、身近な人と一緒に楽しめるようなお菓子を作っています。

会社を経営しながら広島大学に入学した理由はいくつかあります。経営者として知識不足を感じたことや櫟を支えてくださる方々に広島大学の卒業生が多かったこと、また大学受験期を迎える息子たちに挑戦する姿を見せたかったことなど。周囲に合格は無理だと言われたことが反対にさらにやる気につながり、代表として働きながらも無事合格を果たしました。

広島大学に入学してからは、新たな発見や出会いの連続。特に経営学の講義は印象的でした。経営者として強く共感したり、疑問を抱いたり。経営の現場を知る者として意見を求められた際には、自信が持てず逃げ出したくなることもありましたが、誰よりも熱く受講できたと感じています。激務の合間を縫っての通学で、卒業には6年という長い期間を要しました。しかし、この年月で得られた知見や人との出会いはかけがえのないもの。諦めずに学びを続けられたことは、今の私を支える糧になっています。

広島から海外へ 卒業後の新たな挑戦

現在は櫟の海外展開にも尽力しています。場所は、近年急激な経済成長を遂げているウズベキスタンです。広島大学へ留学

していた現地の大学院生と知り合ったことがきっかけとなり、進出を決意。設備も材料も十分にそろわない中でしたが、現地にある素材を生かし、ゼロから櫟のワッフルを作り始めます。人口も増加傾向にあるウズベキスタンの子どもたちに日本のお菓子や文化を届けたい。女性たちが活躍できる社会づくりに貢献したい。これが現在の目標です。優しさや感謝、そして諦めない心を忘れず、いくつになっても挑戦を続けます。

広大のここがええね！

記号の意味すら分からなかった微分・積分。授業外でも熱心にサポートしてくださった、名誉教授で元理学研究科の阿賀岡芳夫先生のおかげでなんとか修了できました。本当に感謝しています。